

2022 年度春セメスター 授業評価結果

1. 実施率

表 1 授業評価実施率

	対象科目数	実施科目数	実施率 (21 春セメ実施率)
共通科目	55	55	100% (100%)
看護学部	56	56	100% (100%)
社会福祉学部	86	86	100% (100%)
リハビリテーション学部	77	77	100% (100%)
計	274	274	100% (100%)

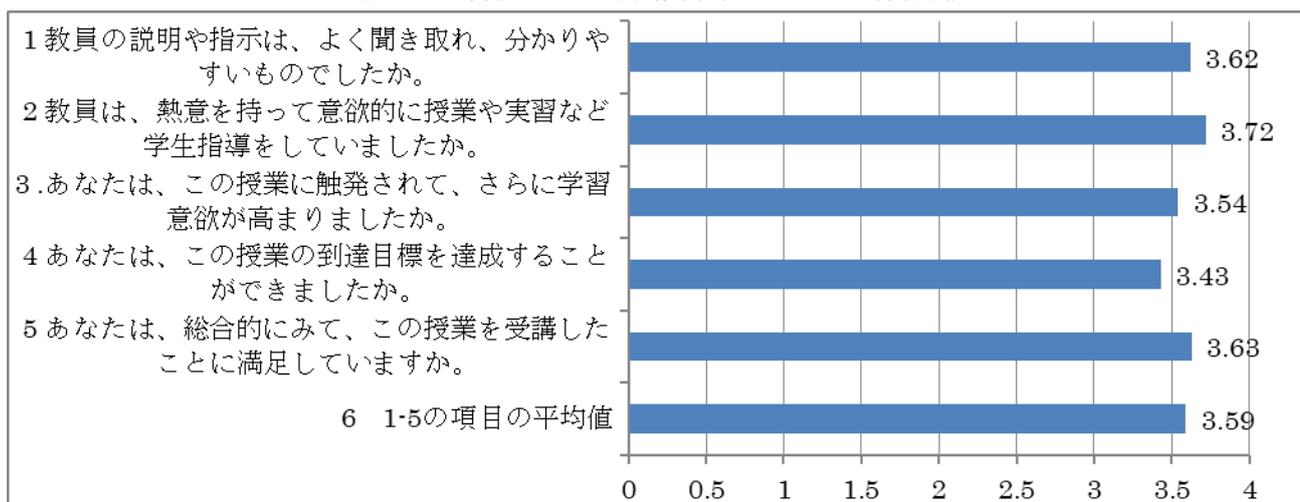
実施結果について

2021 年度同様 2022 春セメも引き続き COVID-19 感染状況の影響下にあるものの、基本は対面 (2 教室中継講義含む) で各学部の状況に合わせて一時遠隔で授業が実施された。教員・学生共にそのような方法での授業には慣れてきている様子が伺え、授業評価の実施率は 100% と維持されている。回答率のばらつきについては継続的課題である。

2. 授業評価結果

評価票の評価について「そう思う」(4 点) ~ 「そう思わない」(1 点) と得点を与え、質問項目ごとに平均評定値を算出した (図 1 ~ 図 5)

図 1 全科目における質問項目ごとの平均評定値



全学 FD 委員長からのコメント

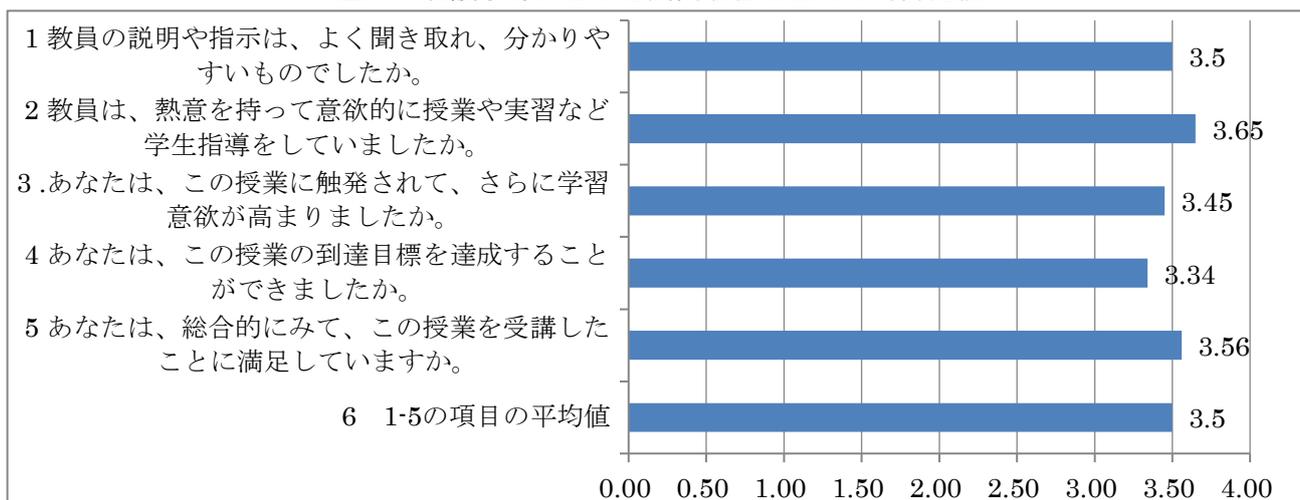
春セメ授業評価平均値推移

問	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
1	3.57	3.65	3.61	3.62
2	3.64	3.76	3.71	3.72
3	3.51	3.46	3.54	3.54
4	3.44	3.39	3.42	3.43
5	3.56	3.59	3.62	3.63
1-5 平均	3.54	3.57	3.58	3.59

0.01 程度の数値変化の詳細な分析にはおのずと限界はあるが、問 1~5 はほぼ微増か同等であり、下がっている項目はない。問 1~5 の平均値については、少しずつ上がってきているものの、問 4 (到達目標を達成できましたか) は、学部により伸び悩んでいる項目である。この設問に対して学生が判断できる情報を教員が具体的に示しているかも含めて、検討が必要かもしれない。対人援助職を輩出する教育機関として、厳しい感染対策を講じ、様々な制約がある中で、各学部とも学生の意欲、達成度、満足度が低下してないことは、教員や学生双方が授業の運営や内容の習得に努力してきたことの表れであると思われる。

DP の観点からは、コロナ禍により、2019 年度後半から対面授業や定期試験を Zoom やレポートに振り替えての対応を迫られた科目もそれなりにあるため、学生による授業評価はともかく、その時期に該当する学生の知識の定着状況など、学生個々の GPA 得点の推移のモニターにより、成績が下降傾向にある学生を把握し、必要な対策を講じる必要性が顕在化してくる可能性があると思われる。GPA など客観的な指標も参考にしながら、授業評価結果の推移を見守りたい。

図2 看護学部における質問項目ごとの平均評定値

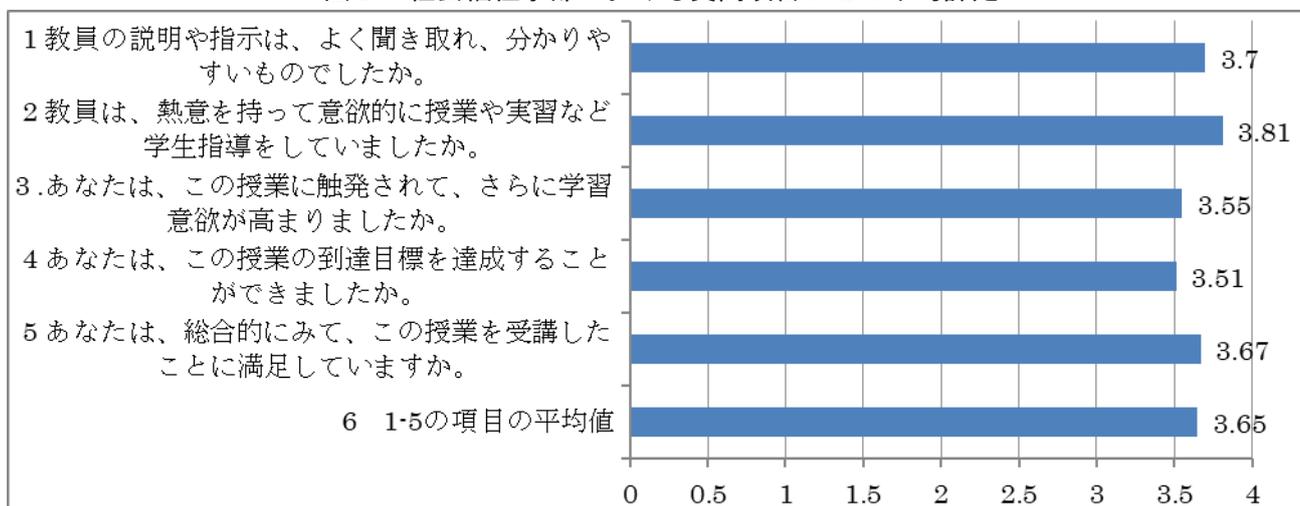


看護学部 FD 委員会のコメント

質問項目 2 以外の全項目において、昨年度春semesterより微増しており、全体としてはほぼ横ばいでした。現在、新型コロナウイルス感染の影響を受けつつも、全面的に登校しての授業ですが、2 教室での講義も多い中、学生の熱心な取り組みと、各教員が努力を重ねた結果が現れていると思われます。

質問項目 4 授業の到達目標の達成についても、値は上昇していますが、未だ 3.5 にまでは至っていません。学生の皆さんが、主体的に授業に参加し、その結果として授業の目標が達成できるように、今後も教育の工夫を行っていきます。現在、カリキュラムの変更の進行中ですので、新たな取り組みや工夫について、評価も含めて進めていきたいと思えます。

図3 社会福祉学部における質問項目ごとの平均評定



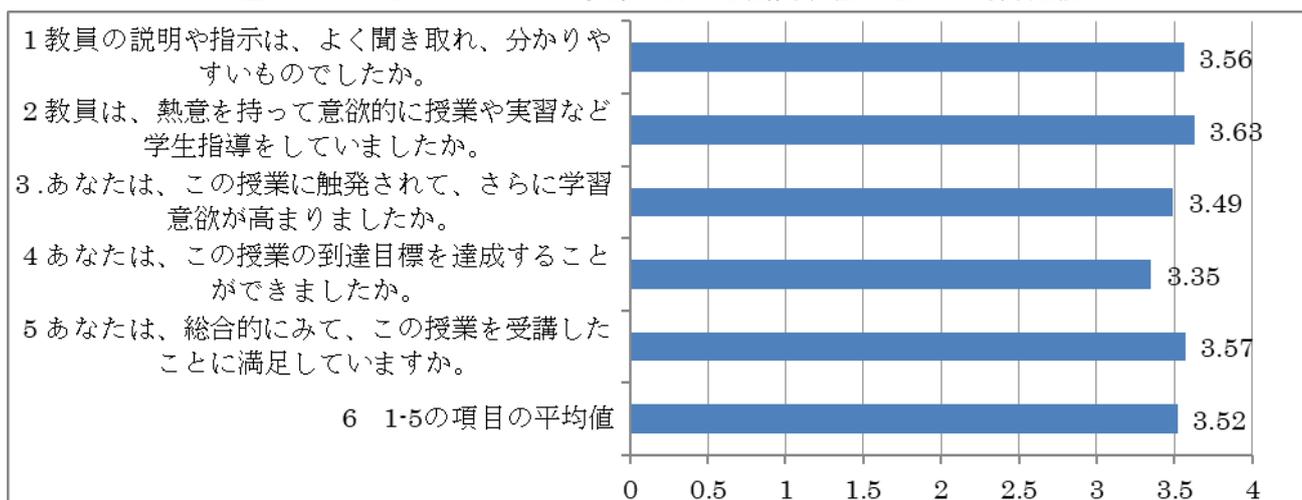
社会福祉学部 FD 委員会のコメント

全体的に前年度と比較しますと、それほどの差は見られずほぼ同じような評価点です。しかし、少しずつ低くなっていますので、改めて学部で結果を共有し、今後の授業改善・向上に向けて具体的に努力をしていこうと思えます。

特に課題として考えなければならないことは、3 の質問項目「あなたは、この授業に触発されて、さらに学習意欲が高まりましたか。」です。いかにして学生のみなさんの意欲を高めるかを念頭に、学部の先生たちで話し合ったり、FD サロンにおいて学生のみなさんとも話し合ったりしていこうと思えます。

とは言え、先生たちの熱意（質問項目 2）や学生のみなさんの受講満足度（質問項目 5）は評価が高くなっています。さらに高まるように、意欲化を念頭に置いた授業改善・向上に取り組みます。

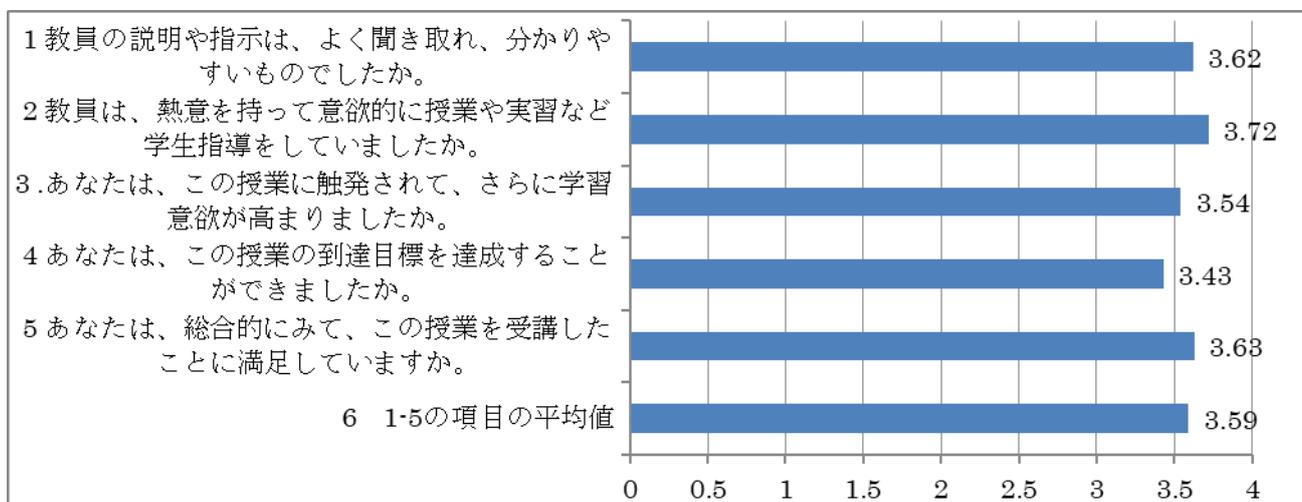
図4 リハビリテーション学部における質問項目ごとの平均評定値



リハビリテーション学部 FD 委員会のコメント

全体的な傾向は、項目によって微増、微減と言えます。「到達目標を達成することができたか」の問いでは、昨年度と比較すると0.02増加しており、形成的評価や総括評価を組み合わせることで理解度が深まり知識の定着を促すことができたと考えています。しかし一方、「この授業を受講したことに満足していますか」に関しては0.05減少する結果となりました。今後は、学生FDメンバーとともに満足度に関連する要因などを明らかにし、学部FD研修等を通じて教員間で共有していきたいと考えております。

図5 教養・共通科目における質問項目ごとの平均評定値



教務部長のコメント

すべての教養・共通科目において授業評価が実施されました。21年度春セメの授業評価とほぼ同じ点数であり、授業評価は概ね高い評価を得たと思います。最終評価結果の到達目標については3.5を若干下回りましたが、多くの担当教員は学生の主体的な学びにつながる授業を展開していたと考えています。今後も、授業評価を振り返り、さらなる授業改善につなげていきます。